



加齢と疾患の関係は？

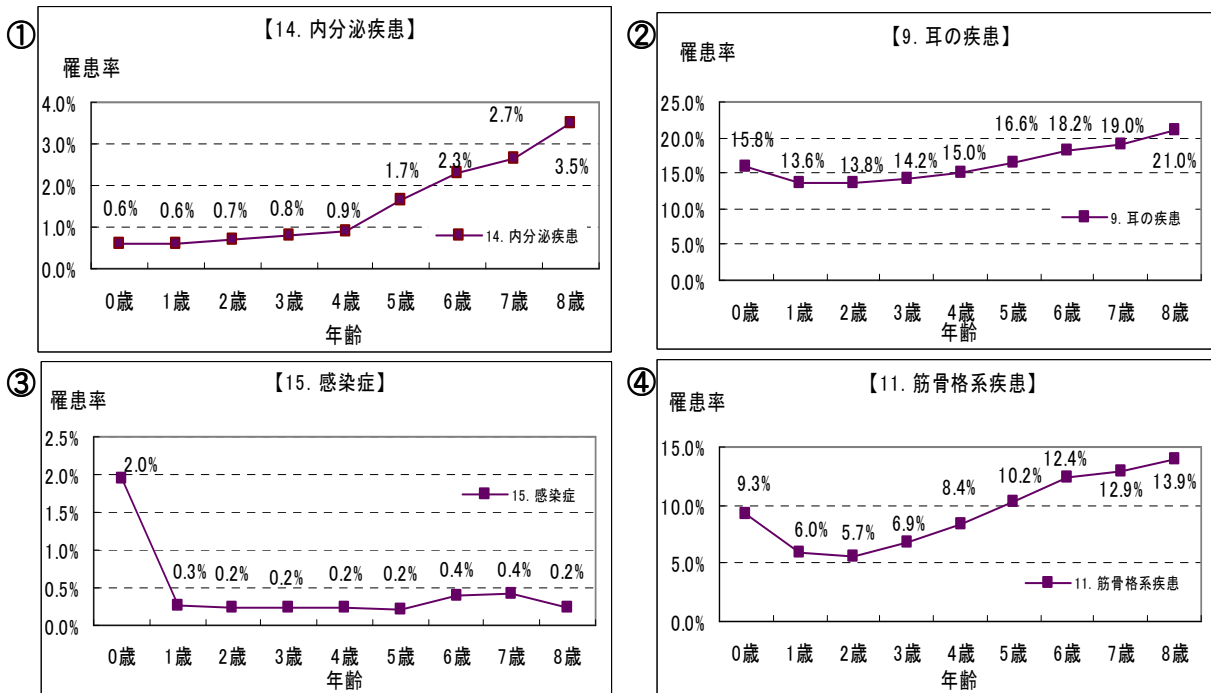
■ 罹患率の年齢推移(0歳～8歳平均)

「年齢を重ねると、病気になりやすい」ということばをよく耳にする。実際にどのような病気がどの程度増加していくのか、傷病の大分類別に傾向を調査したところ、以下の4パターンが見られた。

- ①加齢に伴い急激に罹患率が増加:「内分泌疾患」など
- ②全年齢を通して罹患率は高いものの、加齢による上昇は比較的緩やか:「耳の疾患」など
- ③0歳齢で最も罹患率が高く、1歳を超えると減少し、その後加齢に伴う変化なし:「感染症」など
- ④0歳齢では比較的罹患率が高く、成犬で減少し、再び加齢とともに増加:「筋骨格系疾患」など

④については、0歳齢の成長期では骨折などの事故が起こりやすいこと、膝蓋骨脱臼や股関節形成不全など先天的な疾患が現れやすいことから罹患率が高くなっていると考えられる。なお、加齢に伴う増加は生活習慣などの影響を受けることが多い椎間板ヘルニアなどの発症が増えるためと考えられるが、いずれも今回の大分類における調査では推測の域をでないため、今後より詳細な調査で明らかとしていきたい。

【罹患率の年齢推移 (0歳～8歳平均)】



※ 2006/10/1～2007/9/30までの一年間に契約を開始した犬、227,876頭を調査

※アニコム契約頭数に対して、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を罹患率とした。

疾患の年齢推移にあわせた
健康管理が大切です。

